

週間感染症情報

2023年14-15週 2023年4月3日より2023年4月16日まで

14週 15週

麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)	1	
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	2	6
手足口病		
ヘルパンギーナ		
伝染性紅斑		2
感染性胃腸炎	25	29
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	1	
伝染性膿痂疹(とびひ)	3	1
ヘルペス性口内炎		
アデノウイルス感染症	2	1
RSウイルス感染症		10
マイコプラズマ感染症		
ヒトメタニューモウイルス		
インフルエンザ	64	61
インフルエンザ A	64	61
インフルエンザ B		
新型コロナウイルス感染症	5	5

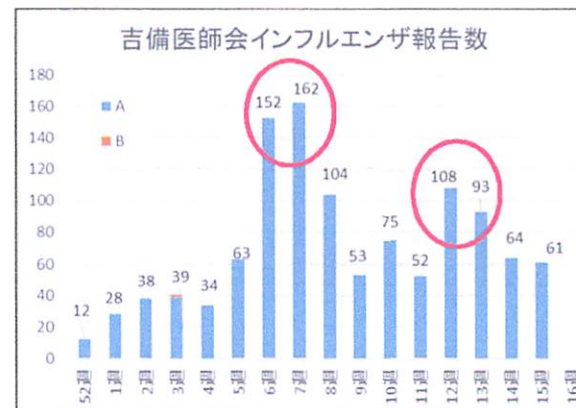
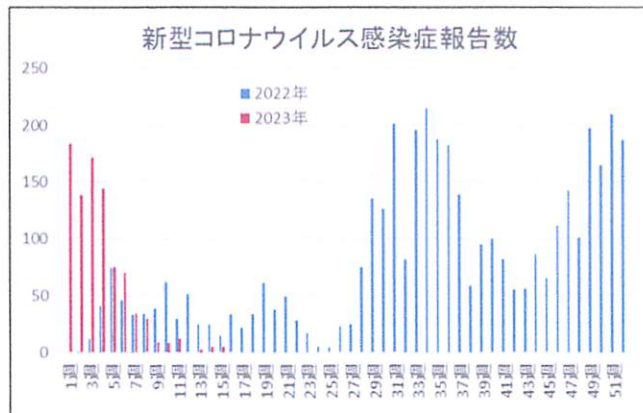
新年度になりました。遅くなりましたが、2023年14週から15週の2週間の報告です。新型コロナウイルス感染症の報告は少ない状況が続いていますがゼロにはなりません。全国ではじわじわと増加しており、第9波の始まりが警戒されています。春休みになり、小中学校のインフルエンザの報告は減少しました。しかし、保育園でのクラス単位での流行が散発しており、吉備医師会のインフルエンザの報告数は60例以上と多い状態が続いています。すべてインフルエンザAで、ワクチン未接種がほとんどです。2年間インフルエンザの流行がなく、インフルエンザに対して抗体を持っている乳幼児はほとんどいないため、クラスで一人でもインフルエンザで早退例があると、2日後にはクラスの多くが感染しています。2週間程度でクラス内の流行は終息しています。総社市の保育園では、インフルエンザでの学級閉鎖はありません。保育園でもクラス単位の保育が行われており、多くはクラス内感染で終息しています。家族内感染もありますが、市内全体の流行にはなっていません。

溶連菌感染症が、市内保育園、幼稚園、小学校などで報告があります。

感染性胃腸炎は多くはありません。発熱・腹痛・血便などがあり、カンピロバクター腸炎の例をみかけます。

RSウイルス感染症は、市内の保育園で流行しています。これからの流行が心配です。感冒症状の小児も増えました。結膜炎を伴うアデノウイルス感染症(咽頭結膜熱)が増えています。

小児の予防接種率の低下が心配です。コロナも含めてワクチンで予防できる病気はワクチンで防ぎましょう。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)